

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025 年 1 月 31 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		学習スペースなど、配置の改善を行っている	さらに怪我無く過ごしやすい環境を整えていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		専門職の配置	理学療法士や音楽の先生など多様な資格や経験者を配置
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	限られたスペースで取り組みの内容を変えている	児童とスタッフ人数で狭く感じることがあるため、活動内容などを考慮していく必要がある
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		消毒の徹底	視覚情報の充実
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		スペースを区切って対応	特性や時間に応じて対応
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		その都度の業務改善会議を実施	正職員を中心に療育の質を高める会議と情報共有を実施
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		個別でのやり取りと共有	情報のフィードバックをおこない、スタッフ全員で改善を行っています
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		毎回の会議の設定	意見の集約と実施
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5	福祉関係に強い人材に評価	外部からの研修時に評価をいただいています
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		オンライン研修の導入	スタッフの資質向上のための資格取得支援や研修の実施
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		HPに公表	わかりやすい表現で書くことを検討していく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		スタッフでの会議で情報共有	見直しなどを行い、支援につなげています
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		個別支援会議を定期的に実施	常に情報の共有を行っていく
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		常に会議後に確認し共有している	正職員だけでなくアルバイトさんもしっかり共有できる体制を作っていく
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		大阪市の書式だけでなく、独自の書式を活用	視覚的にわかりやすいようにさらに改善していく
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		個別支援計画に沿って作成し、職員間の会議で共有している	より分かりやすい内容での共有を考えていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		専門職でチームを形成し、実施している	振り返りの時間を作り、より多くのスタッフで情報共有していく
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		専門性のある療育を実施	特性をさらに理解して行えるようにしている
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		発達特性に合わせて、かかわりを変えながら支援できる体制を作っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		朝のミーティングなどで最終的な情報共有を行っている	

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		終礼時の振り返りと、翌日の朝礼でのまとめを行っている	常に情報の共有を行っていく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		専門スタッフを中心に実施	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		児童発達管理責任者や療育担当スタッフでの情報共有を実施	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		児童発達管理責任者が作成後、療育スタッフとの話し合いで決定している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		常に個別支援会議で内容話し合い、実施に向けて取り組んでいる	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		療育内容の共有や相互に療育の見学などを行っている	定期的な交流を図り、相互の実施内容を理解する。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		情報の提供は保護者様を通して情報共有をしている。	今後も学校との連携をしていける体制を作っていく
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	5	3	児童発達センターとの連携はまだできず、保護者様を通しての情報共有の身になってしまっている。	こちらからもまとめた内容を共有できるようにしていく。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	6	なかなか実施できる状況ではない	今後も連携できる環境を作っていく
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	1	情報の共有や相談の機会を作っている	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	3	希望があれば実施している	ペアレントトレーニングの知識の習得
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		読み合わせの実施と資料の配布	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		相談支援を実施している	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		内容の共有と相談を実施し、理解を深めている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		適時相談支援を行っている	こちらからの声掛け回数を増やしていく
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	6	なかなか交流の機会がない	今後は時間や場所、内容を考慮しながら実施していく
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		公園の使い方などで近隣からの苦情があり、適正な内容に変更した	保護者様が不安にならない範囲で共有していく
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月の便りや会報、SNSなどで共有している	

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		一人一人の情報を可視化し、取り扱いには注意している	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		視覚情報だけでなく、声掛けなどの配慮も行っている	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8	まだ地域への開催はしていない	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルに沿って、定期的の実施している	保護者様への周知徹底が大切
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		定期的な実施、確認を行っている	まだまだ整備が必要
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		個人情報への記入で毎年更新しながら管理	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	5	病院との連携はない	保護者様からの申告での管理となっている
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		適時、訓練や研修を実施している	訓練のたびに改善点を出して次回につなげる
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		フェイスシート等で安全や避難などについて周知徹底している	まだまだ整備が必要
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		事業所の構造や支援内容について検討する機会を作っている	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		定期的な委員会の開催とその後の研修を実施」。	毎年、内容を変えながら実施している
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3	5	まだまだすべてのスタッフが理解できている状況ではないため、継続的な研修が必要。	